

ビジターセンター職員が見た 2016 年の尾瀬

公益財団法人 尾瀬保護財団

尾瀬国立公園（以下、尾瀬という）は、福島・群馬・新潟・栃木の4県にまたがり、本州最大の湿原である尾瀬ヶ原、噴火によって只見川の源流部が堰き止められてできた尾瀬沼、これらを取り囲む至仏山、燧ヶ岳、会津駒ヶ岳などの標高 2,000 m級の山々が織りなす美しい風景を特徴としています。とても長い歴史の中で形成された尾瀬の自然は、微妙なバランスの上に成り立っており、国の特別天然記念物に指定されるなど学術的にも価値の高い自然です。

また尾瀬の中には、尾瀬ヶ原の山ノ鼻地区に尾瀬山の鼻ビジターセンター、尾瀬沼東岸に尾瀬沼ビジターセンターという2つのビジターセンターがあります。これらのビジターセンターでは、職員がシーズン中（5月中旬～10月下旬）駐在し、自然保護活動や尾瀬を訪れる利用者に対する自然情報の発信、自然解説等、各種普及啓発活動を行っています。

季節や天候、時間によってさまざまな表情を見せてくれるのが自然の魅力でもあります。2016年の尾瀬は、「記録的な少雪」の影響で植物の開花が早まったり、霜によって新芽がダメージを受けることなどがありました。ここでは、そんな特殊な年だった2016年の尾瀬の様子をビジターセンター職員がご紹介します。

【 春 】 半年以上が厳しい冬に閉ざされる尾瀬では、雪解けの進んだ4月下旬頃からようやく尾瀬へとつながる道路が開通し始めます。例年ビジターセンター職員は、尾瀬ヶ原の木道がまだ雪で見えない5月中旬から尾瀬に入りますが、その時に撮影した写真を見比べると、2016年の雪がいかにか少なか分かります（写真1）。

また、尾瀬の春と言えばミズバショウが有名で、例年5月下旬～6月上旬に見頃を迎えますが、2016年は少雪の影響でしょうか、5月中旬に見頃を迎えました。その後、霜に当たり多くのミズバショウが茶色く変色し、例年の見頃の時期にはほとんど見られなくなってしまいました（写真2）。

【 夏 】 尾瀬の夏の代表選手と言えば、ニッコウキスゲです。このニッコウキスゲは、ニホンジカの好物でもあり、採食による被害が深刻になっています。そのため、捕獲が進められているほか、大江湿原の周りに侵入防止のための柵が張られています。例年は7月20日頃が見頃のニッコウキスゲも、2016年は10日程早い7月10日頃に見頃を迎えました（写真3）。この他、餌を求めたツキノワグマが、登山道周辺で頻繁に目撃されるなど、記録的な少雪は動物の生活にも影響を与えたようでした。

【 秋 】 湿原が色づく草紅葉（くさもみじ）に始まり、次第に紅葉していく木々の美しさが尾瀬の秋の見所です。紅葉が綺麗に見られる条件は色々ありますが、2016年は春先の霜による葉へのダメージや9月の長雨による日照不足などの影響で、多くの葉が綺麗に色づく前に落葉してしまいました（写真4）。

【 冬 】尾瀬は標高 2000 m級の山々に囲まれた山岳地域のため、麓よりも早く冬がやってきます。例年10月中旬から徐々に山小屋等は営業を終了し、月末にはほぼ全ての施設が閉鎖されます。尾瀬へと通じる道路も閉鎖されると、尾瀬の中に人はいなくなり約半年間の長くて厳しい冬を迎えます（写真5）。



写真 1 :

2016 年(左)と 2015 年(右)の 5 月 12 日に撮影した上田代の様子



写真 2 :

2016 年 5 月 21 日(左)
尾瀬沼東岸のミスバシヨ
2016 年 6 月 5 日(右)
霜で変色したミスバシヨ



写真 3 :

2016 年 7 月 11 日(左)
2015 年 7 月 19 日(右)
大江湿原のニコウキスガ



写真 4 :

2016 年 10 月 4 日
大江湿原の草紅葉(左)
傷付いたカエデの葉(右)



写真 5 :

2016 年 11 月 2 日(左)
下山時の燧ヶ岳の様子
2016 年 3 月 16 日(右)
除雪作業時の尾瀬ヶ原
(この時点で GW 頃の残雪量であった。)